

特集

子どもの居場所



義方公民館
アメージングスクール



米子市教育支援センター
ぷらっとホーム



te to te ~つなぐん家~

家庭を取り巻く環境が複雑になり、地域のつながりも希薄になる中、悩みや不安を抱え、孤立する子どもが少なくありません。未来を担う子どもたちのために、家庭や学校以外の「子どもの居場所」をつくる取り組みが米子市でも広がっています。

今回は市内のさまざまな子どもの居場所の中から、義方公民館の「アメージングスクール」、米子市教育支援センター「ぷらっとホーム」、そして角盤町に昨秋開所した「てとてつなぐん家」の取り組みを紹介します。





公民館で
学んで遊んで

義方公民館

アメージングスクール



(写真右) 書道教室で教える原田さん
(写真左上) 生け花教室
(写真左下) 囲碁・将棋教室

土曜日の朝、義方公民館にはたくさんの子どもが集まります。囲碁・将棋、生け花、書道、料理など、さまざまな教室が開催され、子どもたちは時に真剣に学び、時におしゃべりを楽しみながら活動しています。教えるのは地域の大人たちで、教わるのは子どもだけでなく保護者の姿も。義方公民館で開催される学びの場「アメージングスクール」には、地域の幅広い年齢の人たちが集います。



義方公民館長
まつやま れいぞう
松山 禮三さん

休みの日に子どもたちが地域で遊ぶ姿を見ることが少なくなりました。子どもたちには遊びの場としても公民館を使ってほしいと思います。

「学校の週5日制が始まったころ、子どもたちが土日に家で退屈そうにしていた」と、義方公民館長の松山さんは振り返ります。子どもたちの週末活動を公民館も支援しようと、学校外で空手や書道を子どもたちに教えていた教員の原田さんに相談し、子どもたちの休日の居場所として、公民館を開放しました。開催される教室が少しずつ増え、令和2年の春から「アメージングスクール」という形になりました。現在9種類の多種多様な教室を土日に開催しています。原田さんは「小学校が学校教育のための学校だとしたら、『アメージングスクール』は社会教育(学校教育以外の教育)のための学校。目的は、学びを通じて地域の幅広い年齢の人たちと

交流しながら、さまざまな体験をすることです」と、理念を説明します。

スクールの校長は、公民館長の松山さんが務めます。場所も主催も公民館とした利点は、子どもも保護者も安心して利用できることと、公民館が持つ地域のさまざまなネットワークを生かして、人を結びつけられることだと言います。「地域の人たちもスクールに関わってみると『元気が出た』と言ってくれ、子どもたちも楽しそうに参加してくれています」と松山さんはほほ笑みます。連携を深めるため、小学校との関わりも大切にしており、現在では大人は20人、子どもは150人ほどが参加するようになり、地域で認知が広がってきました。

原田さんは、公民館を大人だけの居場所にするのではなく、子どもの居場所にもなればという思いを抱きます。「公民館での大人の活動を子どもにも開放するだけで、子どもの居場所づくりにつながります。一緒に遊ぶ程度でいいんです。そして、こうした取り組みが市内全体に広がってほしいと思います」



(写真右上) 木の温かみを感じる内装 (写真左上) 大判焼きの店舗だった建物にオープン
(写真下) 開所式には関係する地域の団体が集まり、連携を確認した

地域で支える
もう一つの家



te to te つなぐん家

国境や分野を越えて公益事業を支援する社会貢献財団である日本財団。さまざまな困難に直面する子どもたちを支えるため、学校や家庭以外の安心して過ごせる「子ども第三の居場所」を全国136か所に設置しており、500か所の拠点の開設をめざしています。

昨年11月には、米子市角盤町に拠点がオープン。昨年4月に、日本財団、一般社団法人つなぐプロジェクト、米子市の三者が協定を結び、「te to te つなぐん家」として開所しました。日本財団から財政支援を受けながら、子どもたちの支援活動を行うつなぐプロジェクトが主体となり、米子市や地域と連携しながら子どもたちをサポートします。

日本財団理事長の尾形さんは、開所記念式典で「学校や家庭で困難を抱えても、それ以外の居場所があれば、子どもたちが自己肯定感を育むことができます。全ての子どもたちが通える第三の居場所を地域全体で支えてほしい」と、居場所づくりの重要性を訴えました。

表である今川さんは、「昭和にあった地域コミュニティのように、米子市中心市街地で子どもたちを地域の方々と一緒に大切に育てていきたい。そして、ここに通った子どもたちが社会に出て活躍できるよう、一緒に応援してほしい」と、地域の協力を求めました。

「te to te つなぐん家」は一人ひとりにあったサポートや将来自立できる手段を提供しながら、子どもと保護者が気軽に立ち寄れる場所として運営されます。開設された場所は、地元から愛される大判焼きの店舗だった建物。県内産の木材を使った温かみのある内装が施され、次世代の担い手となる子どもたちを地域で育む施設として歩みを進めます。

more information!

te to te ~つなぐん家~
開所時間や利用方法など
くわしくはこちら





(写真上) 旧市立米子養護学校(車尾)を改修し、「ぷらっとホーム」としてオープン
(写真左) 入口に設置された看板 (写真右) さまざまな活動ができる部屋が用意されている



気軽に通える
新しい居場所

米子市教育支援センター ぷらっとホーム

近年、家庭や地域などの子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、さまざまな理由で長期的に学校に通うことのできない児童生徒が全国的に増加しています。

米子市では、学校に通いづらい子どもたちのために、学校や家庭以外の新しい居場所・学びの場として、米子市教育支援センター「ぷらっとホーム」を昨年8月に開所しました。その名の通り、子どもたちが「ぷらっと」気軽に通え、さまざまな学びを経て次の出発を迎えられる駅の「プラットホーム」のような役割を果たす場所をめざしています。

「ぷらっとホーム」では学習のみならず、通所する子ども同士でレクリエーションをしたり、美術などの創作活動をしたり、外に出かけて地域学習をしたりするなど、家庭では体験が難しい豊かな活動を実施しています。センターに通う児童生徒の数は徐々に増えており、学校や家庭、地域が一体となって子どもたちの社会的な自立や学校復帰に向けたきっかけづくりとなるよう支援を続けていきます。



ぷらっとホーム
副センター長
神庭 誠さん

「ぷらっとホーム」では、個人の状況に合わせた学習や、少人数でのコミュニケーション活動、時には地域に出かけて体験活動を行います。通われる皆さんが安心して過ごしたり、学習したりしながら、次のステージに出発できるよう私たちがサポートします。

こども総本部が
一体的にサポート！

お気軽にご相談ください

米子市こども総本部は、地域と連携しながら、子どもの教育と福祉を一体的に支援しています。子育ての困りごとや地域での子どもの支援など、ぜひお気軽にご相談ください！

☎ 23-5467

